

ライマン雑記(5)

副見 恭子¹⁾

皇后開拓使仮学校行啓

「明治天皇紀」の明治6年(1873年)12月5日箇条書きの一つに、「皇后午前10時御出門、開拓使仮学校に行啓、男女生徒修業の状を巡覧したまひ、御昼餐畢りて北海道産する所の諸鉱物を台覧、午後三時還啓あらせらる。開拓使仮学校は、客藏三月芝増上寺方丈跡に之れを設け、九月女学校を同校内に置く。八年七月之を札幌に移す^{注1)}」とある。「新聞雑記」では、いとも簡単に「本月5日、皇后宮開拓使女学校へ、行啓アラセラレタリ^{注2)}」で、注意して読んでいないと見落してしまふ。この2つに比べ、ライマンが皇后開拓使仮学校行啓について書いた明治6年12月7日付の父への手紙を読んでいると、俄然3Dテレビを見ているように、皇后を身近かに感じる。明治天皇の皇后、昭憲皇太后をこれ程近くで観察した御雇外国人はまずいないのではなからうか? 5日が行啓で手紙の日付が7日であるから、まだ網膜に鮮やかに残っていたとみてよいし、又ライマンは地質学者としての精密な眼で捕えているので、信憑性が高い。明治6

年は、1月17日に横浜に到着して以来、見る事聞く事すべて驚きであり、ライマンが次から次へ新しい環境に順応していった年であった。父への手紙は、「これまで幾分単調だった開拓使で、今年とは言いませんが、過去2週間に於ける大事件は一昨日の皇后行啓でした」で始まる。

皇后がここから2マイル程の開拓使官園で夏に女学校の展示会を大へん楽しまれたので、何時か開拓使女学校を訪れると言われていましたが、水曜日に皇后が開拓使仮学校や私の助手達、また建物全般もごらんになるとの知らせがあり、午後には金曜日に行啓されるとの通達がありました。従って木曜日は、夜明けになるや、いやそれより前から喧噪が始まりました。随所に大工の小修理、長年積った塵払い、新しく障子の張替え、床をピカピカに磨き上げ、こわれた窓ガラスの修繕、さまざまの片付け、これらの仕事はここかしこで、大急ぎで1日中行われ、夜通しやった様子で翌朝まで続きました。始めの計画では、私の助手達の修業をごらんに入れるところでしたが、木曜日の午後教室を片付けている最中に、皇后はこちらには来られず、助手達は開拓使構内の入口で、他の生徒達とお迎えするよう知らせがありました。私達外国人は10時に指定された部屋で待つよう通知がありました。その部屋には皇后がいられる隣室へ入る人々の順に椅子が並んでいて、各椅子には名前を書いたラベルがついていました。

ライマンの家計簿に、「青山開拓使より本郷加賀邸まで、わうへん つかい 20銭」とあるが、開拓使(増上寺内)または芝開拓使に対して、青山開拓使と言ったようで、ライマンの手紙では、The Kaitakushi farmsと書いてある。天皇・皇后・皇太后は官園の内外の草花を大そう楽しまれた。殊にライマンが述べている夏のご訪問は5月17日で、皇后は皇太后と一緒に行啓され、ジェネラル ケプロンの先導で和洋草花・蔬菜をご巡覧、官園新製のお茶を召し上ったり、女生徒の英作文や裁縫をご

○開拓使官園行啓 本月十七日午前十二時、皇太后宮皇后宮、開拓使官園ニ行啓アリ、萬里小路宮内大輔、石井宮内少輔、井女官八名供奉、御馬車ニテ、第一號官園ニ入ラセラレ、七等出仕調所廣文迎候シ、雇入教師「ケプロン」共ニ先導ス、御履ニテ御歩行、和洋各種ノ草木、及び温泉内ノ花草、園圃ノ蔬菜等御巡覧。夫ヨリ第二號官園へ御西遊、園亭ニ御小憩、午後三時、第三號官園亭ニ御駐車、特ニ黒田次官視本中判官ヲ召テ賜テ賜テ賜テ、五等出仕西村貞陽、山内堤雲、田中幹事等モ亦伺候シ、官園新製ノ茶ヲ上ル、ケプロン夫妻、女教師「イッワーテル」、イデオイテル、等中ニ於テ拜謁ス、女生徒四十一名、北海道女人四人、裁縫工女十三名、亭下ニ羅列拜謁ス、女生徒、福島藤子十六歳、長瀬春子十二歳、澤島八重四名ニ之ヲ翻譯シ、水野良子十六歳、藤原登子十六歳、澤島八重四名裁縫御覽アリ、女生徒平ノ作文手記及び裁縫品等、其徳宮中ニ御持セナリタリ、皇太后ヨリ「ケプロン」ニ、園中ノ花草栽培行届キ、祝ハシク思召サレ、女教師へ、生徒ノ教育行届キ、満足ニ思召サル段、皇太后ヨリ「ケプロン」へ、園中ノ花草実用ガハシク思召サレ段、親シク御覽詞アリ、ケプロン、及女教師ヨリモ今日拜謁難有旨申上ル、兩宮ヨリ、女生徒へ、猶又勉勵スベキ旨温諭アリ、使中奏任以上ニ、酒饌茶菓ヲ賜ヒ、北海道男女政名、亭下ニ於テ土俗ノ歌舞ヲ奏ス、午後五時御乗車、園中ノ羊豚等御巡視、テ還御コレ有リタリ。(五月廿五號)

第1図 雲上新聞紙に掲載の皇太后・皇后の開拓使への行啓記事。

1) マサチューセッツ大学頼問 : 8 Eaton Court, Amherst, MA 01002, U. S. A.

キーワード : ライマン, 開拓使, 仮学校, 皇后行啓

きみかよは
千代に
八千代に
さくれ
いしのい
わほご
なりて
こけの
むすまで

TRANSLATION

May our Lord's dominion last
Till a thousand years have passed
Twice four thousand times o'ertold!
Firm as changeless rock, earth-rooted,
Moss of ages uncomputed
Grow upon it, green and old!

第3図 ライマン所有の和文と英文の君が代。

ンが女子アイビーリーグの一つ、バツサー大学の学長になったのは、1865年(慶応元年)であった。またライマンが来日する2年前に、母方スミス家のソフィア スミスがスミス大学を1871年に創立しており、現代その名は全米にとどろいている。最後に、ハーバート大学以来終生の親友だったフランクリン サンボーンの影響を見逃すことは出来ない。サンボーンは、教育家・著述家・ジャーナリスト・慈善家で、南北戦争以前から奴隷制度廃止運動に活躍した人である。彼の自由・平等及び正義への情熱は、ライマンへ波及した。手紙に戻ろう。

講義した科目は驚くべく広く、天文学・地質学・化石学・鉱山学・鉱石学・気象学・測量学で約30分したのですが、その半分は通訳が費いやし、時々ミスター黒田や他の人々が傍から口をはさみました。この変わった出来事は、私には異常なセンセーションであり、幾分うろたえました。お見せしたのは、ホール教授の2枚の地質と化石の図表、石炭鉱山内部の図、蝦夷と隣接諸島の地図、茅沼石炭鉱山地下採掘図、種々様々の天気図、地球儀二個、各サイズの石炭見本と私達の測量計画案でした。皇后は説明を聞く時は近くに來られるので、しばしば皆かたまる状態になりました。すでに目を十分に注ぐ様子になってしまいましたので、皇后を熟視する絶好のチャンスに恵まれました。

ブルネットの濃さ程の黒い髪、ローマン型であるが、小さくて良い鼻、きつと結んだ小さな口、皇后特有のお化粧等々生き生きした皇后を描いているが、ドレスに関しては体の線がわからぬ位厚着で、色は赤、裾は長くな

かったと男性の目で見ている、大ざっぱな描写である。惜しいのは、無表情を装った皇后が何かの瞬間いらだった表情を示されたのをライマンはキャッチしているが、そこは文字が消え永久の疑問として残るのみとなった。陳列品の中の出来のよくない剝製、白いたちか、毛長いたちか、ともかく蝦夷からの動物で、名前の意味が“Hell dog”だと説明した時、大いに悦に入りましたと父へ語っている。アメリカでは、“Hell”の言葉は高貴の人や女性の前で用いてはならぬ語であったからであろう。

小さな部屋の広いドアが開くと、建物の正面入口になり、皇后は短いステップでゆっくりと歩かれ、3段下り、付き添った侍女の中の一人か二人の助けで馬車に入られると、馬車の大きなガラス窓の内側にある透き通った緑のカーテンが下されました。馬車の皇后旗の中にして坐っていた二人の金モールの御者の一人によって馬車が進みました。他の人々も4台の馬車に乗り皇后の馬車の後に続きました。その間教師および役人、上はミスター黒田まで脱帽して恭々しく頭を下げました。

その後ライマンは弟子、即ち助手につき次の様に書いている。ライマンが鉱物室で皇后を待っている時、皇后がライマンの7人の助手の中の最優秀者にプレゼントを贈りたいとの知らせがあったので、ライマンは考慮した後、最優秀者は最年長者、その人の名を申し出た。山内徳三郎に違いない。しばらくして彼の名が群衆の中で呼ばれたが、結果はどうなったか聞いていないと結んでいる。

行啓の翌日はすっかり静かになりました。昨日は学校もオフィスも休みで、オフィスは今日から始まりました。少し騒々しいのは、私がフィラデルフィアから日本へ立った日であり、また開拓使での一年が終った記念日だからです。今夕は晩餐会があり、開拓使の高官8人から10人位出席します。ケプロン將軍は唯一の外人です。

この約1年間の異郷での苦勞を克服し、第一回蝦夷地質測量に成功した結果、ライマンは開拓使内での座を揺るがぬものにし、彼の自信溢れた第二年目がスタートするのである。

<注>

- 1) 宮内庁(1969):「明治天皇紀・第3」. 吉川弘文館, p. 170.
- 2) 明治文化研究会編(1967):「明治文化全集 皇室篇 第17巻」. 日本評論社, p. 319.
- 3), 同, p. 313-314.
- 4) オランダ人, 海軍省兵学寮勤務.

FUKUMI Yasuko (1991): A note on Lyman, (5)

<受付: 1990年7月25日>